

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立川副中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

| 生徒に対する調査 | 学校に対する調査 |
|---|--|
| 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など | 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など |

(2) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童(生徒)の割合。

| 佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目 | 本校 % | 全国平均 % |
|---|-------|--------|
| 学校に行くのは楽しいと思う。 | 86.2% | 86.1% |
| 将来の夢や目標を持っている。 | 69.2% | 67.5% |
| 自分には、よいところがあると思う | 82.0% | 86.2% |
| 学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている | 89.3% | 84.7% |

「学校に行くのは楽しいと思う」「将来の夢や目標を持っている」の項目は、全国平均より高く、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」の項目は、全国平均を大きく上回っています。しかし、「自分には、よいところがあると思う」の項目は、全国平均よりも低い結果が出ており、学校としては、今後役割や承認を意識した取組を進め、自己肯定感・自己有用感の向上を図っていきます。

| 家庭学習の様子に関する調査の項目 | 本校% | 全国平均 % |
|--|-------|--------|
| 学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」 | 5.3% | 9.9% |
| 「2時間以上、3時間より少ない」 | 18.1% | 20.9% |
| 「1時間以上、2時間より少ない」 | 24.5% | 30.8% |
| 「30分以上、1時間より少ない」 | 23.4% | 19.1% |
| 「30分より少ない」 | 20.2% | 11.3% |
| 「全くしない」 | 8.5% | 7.7% |

家庭学習の時間が全国平均よりも低く、1時間未満の生徒が5割以上おり、個人差も見られます。家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を伝え、家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2)改善に向けての取り組み

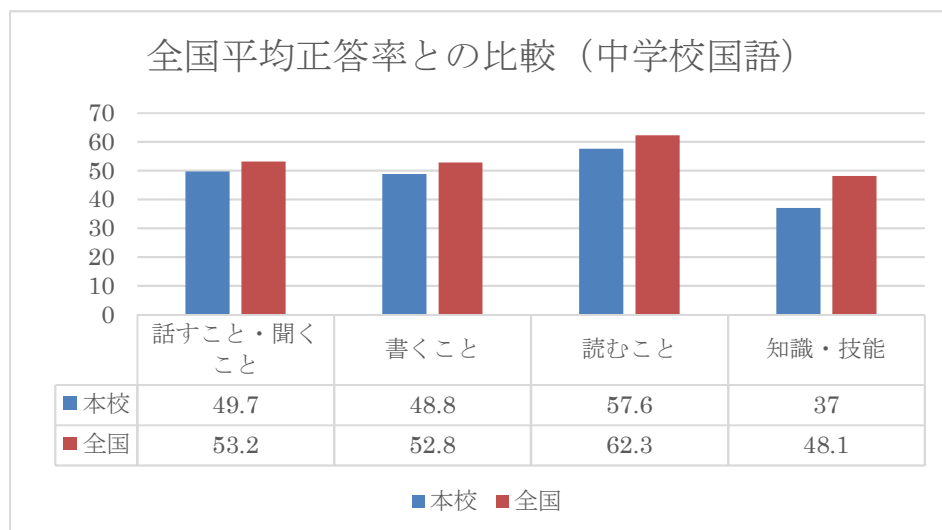
【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても毎日取り組ませ、授業内容の定着を図っていきます。さらに、授業で学んだことが定着できるように、丁寧に指導していきます。
- キャリア学習を通して、将来について考える機会をもたせます。また、他者と関わる中で自分の良さに気づかせ、自身を見つめさせることで、夢や目標を持つきっかけを作ります。

【ご家庭では】

- 学校便りや学年便りをご覧になり、学校を話題にした会話を増やしてください。
- 「学年+1」時間の学習時間を目標に、決まった時間に家庭学習を行う習慣づけをしてください。
- お子さんの成功や努力した過程、挑戦や成長など、どんな小さなことでも逃さず、大いに褒めてあげてください。

2 国 語



(1) 結 果

すべての項目において、全国平均より低くなっています。特に、「知識・技能」は全国平均より 11.1 ポイント下回りました。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の項目において、全国平均よりやや下回る値となりました。今後も継続して、読書の推進や授業における読む活動に取り組んでいきます。課題としては、記述式の問題の正答率を上げることです。特に「書くこと」では無回答率が高く、「書くこと」自体に苦手意識を持っている生徒が多いと考えられます。課題に対して自分の意見を書き、話し合いや対話に繋げられるような活動を授業に取り入れることで、定着を図っていきます。

(3) 学力向上のための取り組み

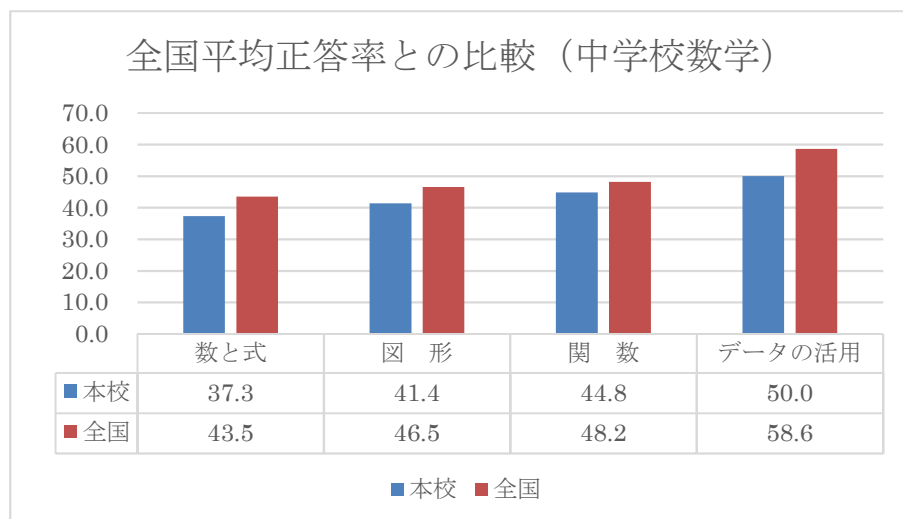
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、指導法を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やしたり、インタビューや案内したりするなど、日常生活につながる言語活動を授業で設定します。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習を多く取り入れるとともに、ICT や辞書の活用など、語彙力を高める活動を増やします。

【ご家庭では】

- 繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることにもつながります。
- 読書の時間を増やしてください。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語に触れることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

3 数学



(1) 結 果

すべての領域で全国平均を下回る結果でした。特に「データ活用」の解答率については、すべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「数と式」の領域の、数量を文字を用いた式で表す問題や、事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげる問題の正答率が全国平均を上回っていました。課題としては、記述式の問題において、正答率の低さや無解答率の高さです。基礎的な事項を繰り返し演習し、自分の考えを表現することを重点的に学習することが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

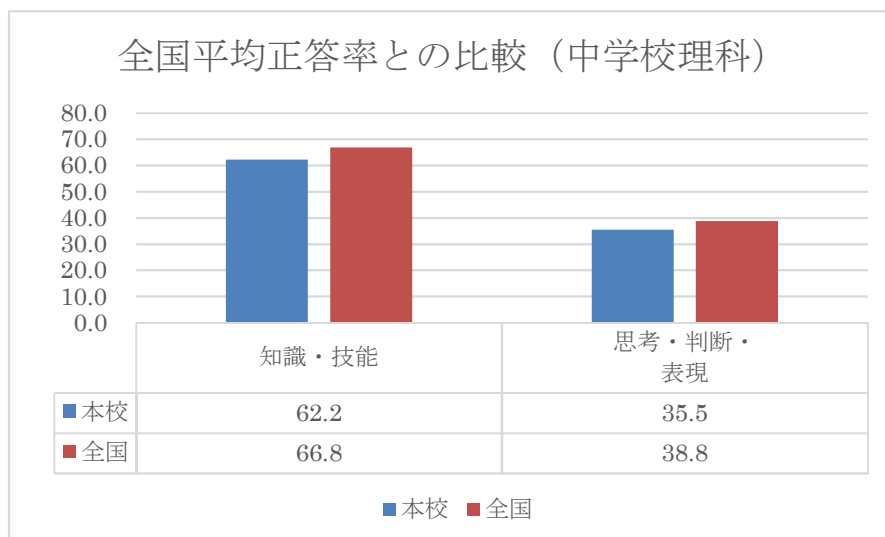
【学校では】

- 日々の授業の中で、小テストなどの知識・技能を振り返る場面を設定し、繰り返し指導することで定着を図ります。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 日々の指導の中で個々のつまずきを見つけ、TT指導等、個別の対応に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんの学習の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 計算の技能は日々の積み重ねが重要です。毎日、問題を解く習慣を身につけさせてほしいと思います。
- 日常の中で数学を使う便利さを経験させることで、数学的な思考力を育むことができます。家族の会話や生活の中で意識的に数学を活用させてください。

4 理科



（1）結果

評価の2観点において、全国平均を下回る結果でした。特に「知識・技能」では、すべての問題で正答率が全国平均より低くなっています。

（2）成果と課題

今回の調査では、「生命」の領域の植物のスケッチから適切なものを判断する問題の正答率が全国平均正答率を0.7ポイント上回っていました。課題としては、記述式の問題に対して、無解答の多さと正答率の低さです。日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

（3）学力向上のための取り組み

【学校では】

- 「めあて」や「授業の流れ」を提示することで、見通しを持った授業を展開し、生徒が主体的に参加できたと実感できるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。
- 日々の授業で、結果に対する考察を論理的に説明する場面や書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 授業の中でタブレットを活用する機会を増やします。

【ご家庭では】

- お子さんの学習の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。保護者の方の関わりがお子さんのモチベーションを向上させます。
- 理科が好きになるには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」という経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。